



これからのまちづくりにおける 公共交通の役割

まちは、人と人が集まることで賑わいと活気が生れます。そして、集う人々をまちへ運ぶために、公共交通が必要で。公共交通は、“人と人”“人とまち”を結ぶ役割を担っています。さらに、クルマに乗っていた人がバスやモノレールといった公共交通を利用するようになれば、自動車の利用数が減り、交通渋滞の緩和にもつながります。

まちなかに入る自動車量を減らしながら公共交通をさらに便利にすることで“人を中心としたまち”“誰もが移動しやすいまち”を目指します。

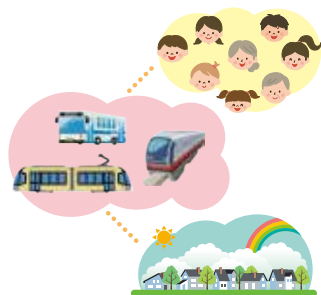
このような、人にやさしいまちの実現に向け、現在新たな交通機関として「LRT」導入に向けた計画を進めています。那覇市では、目指すべき“将来公共交通ネットワーク”の中で、次世代型路面電車LRTをまちづくりを支える重要な公共交通として位置づけています。LRTは中心市街地・真和志・新都心の3つの拠点を結び、バスやタクシー、モノレールと連携することで人々の移動をスムーズにし、住みよいまちづくりへの効果が期待されます。



人々にぎわう街(フランス)



街中を走るLRT(フランス・オルレアン)



那覇市が目指す 将来公共交通ネットワーク —誰もが移動しやすいまちを目指して—

- ◀▶ 鉄軌道を含む新たな公共交通システム
- モノレール
- ◀▶ LRTなどの基幹的公共交通
- ↔ 公共交通軸(バスなど)
- 歴史と文化の拠点
- 物流と交流の拠点
- 交通結節点(ライド&ライド型)
※公共交通同士の乗継ぎ
- 交通結節点(パーク&ライド型)
※自家用車から公共交通への乗り換え
- 公共交通不便地域

